**椒集五十卷がある。その子嘏後を承けた。** 廿二日、年五十六。著す所瓊敷玉藻一卷・白雪 後終に仕へずして歿した。時に元文元年二月 後明・朝倉景純・朝倉嶽等その翹楚であつた。 を爲し、加廢惟寅・生駒直武・不破篤敬・不破 により帷を下して弟子を教授したが、門人市 相唱和した。享保十四年審臣前田孝和の慫慂

年十一月十五日五十九歳を以て歿した。 明治七八年の頃此君庵二代を立几し、三十八 名は正秀。資船路町に住し、新聞社員となり、 イトウセツコウ 伊藤雪鴻 金澤の俳人。

四年小松町奉行となり、九年金澤町奉行に翌 襲いで前田綱紀に仕へ、馬廻組に入り、正德 吉の孫。天和元年忠勝父の歿後その祿千石を 字長太郎、後彦兵衛。父の名は主計勝直。利 イトウタダカツ 伊藤忠勝 初韓忠順。 十五年馬廻頭に進み、元文五年三月歿し

其日庵と號した。名は重喜。十三間町に住し 二歳を以て歿した。 て菓子薬を營み、明治廿八年八月廿一日七十 イトウチュウバク 伊藤忠莫 金澤の俳人。

し、安永六年若年寄に進み、天明三年家老役 の間 小松城番・寺社奉行・公専場奉行に 歴任 純歿後其の祿二千八百石を襲ぎ、寶曆・明和 百石を受け、同年七月歿した、年六十九。 め、享和二年退老して白鷗と號し、隠居料五 に陞り 若年寄を 棄ねたが、寛政三年職 を 稲 内勝と稱した。一の諱は正聞。寬保二年父正 イトウトキズミ 伊藤時純 虎之助・土馬・

左衞門。元祿十四年御步に召出され、筃永元 年前田吉徳附屬の御歩となり、享保二年御歩 イトウトザエモン 伊東戸左衞門 初め彦

元文元年百石を加へ、寛延二年歿。子孫世々 小頭として百石を受け、九年三十人頭となり、

**圖書。父は長門守盛景。その先は伊勢の人。** 元和六年前田利常に仕へて二千石を賜はり、 イトウトショシ 伊藤利吉 通稱彦兵衛・

した。 物二疋・銀二枚・鳩杖を賜はり、十一年正月歿 時扶持髙拾五石を受け、九年百歳に達して染 | ものをいふ。いとこぞろの暦義は明らかでな の頃の八左衞門は俳名を友陽といひ、篤實慈 保元年無役惣年寄列となり、五年九十六歳の 悲の人で、十二年金五百疋を賞賜せられ、天 郡馬場の猫家で、世々十村役を勤めた。文政 九年歿。子孫世々藩に仕へた。 イトウハチザエモン 伊藤八左衞門 四至 ١,

し、寛保二年歿した。 内勝。重澄の嫡男。享保八年父の歿後祿二千 八百石を襲ぎ、寺社奉行・公専場奉行に歴任 イトウマサズミ 伊藤正純 通解金右衛門・

源右衛門。祖内辟重正の子兵助正能の二子平 親に侮へ、政親は御表小將を勤めてゐたが、 召放し一類御預となつたo 事により申分をなし、<br />
三年二月十五日知行を 正徳二年江戸に於いて同役松原兵助と男色の 九郎政辰は配分知五百石を受け、之を養子政 イトウマサチカ 伊藤政親 通解孫三郎・

その名が見える。 廿一日附下間刑部卿法限宛の訴狀連名中に、 領で、通稱を宗十郎と言つた。天正四年八月 イトウマサノブ 伊藤政誠 一向一揆の首

の人。少にして松永昌三に母び、晩年加州に 年と號し、聯番の堂を春秋館と稱した。京師 イトウョシサダ 伊藤由貞 字は太享、萬

> | 七月歿した。年六十一。由貞の加賀に在るや、 來り、客寓すること六年にして、元祿十四年 し、一世に重きを爲した。 能く消貧に堪へ、經學詩文を以て諸生を發養

新保二番丁となつた。 明治四年四月戸籍編成の際・舊名を・止めて木・ 初の頃生糸を納め置く倉庫があつたゝめの稱 で、木倉町と同種の名であらうと思はれる。 イトクラマチ 糸倉町 金澤の苺町名。藩

| 豆と共に煮て、之を親鸞上人の興前に捧げる イトコゾロ いとこぞろ 河北郡の山村に

で深手を負ひ、次いで死亡した。掃部の嫡流 慶長十九年大坂役に出陣し、十二月四日笹山 機網した。 衛門は寛永十六年大聖寺侯に附せられ、子孫 勘一郎は閲心のため断絶したが、庶流五郎左 イナガキカモン 稻垣掃部 イトダ 糸田 石川郡五ヶ庄に顕する部落。 祿千二百石<sup>o</sup>

兎毛·覺左衛門。一諱安居。祿四百石。 大小將 り初めて稻垣氏を稱した。玄周前田光高に仕 寛文二年歿し、その子里庵を經て、玄周に至 希質に就いて詩書を學んだといふ。 御横目より次第に昇進して御持簡頭に至り、 氏。祖玄周の時寬永十一年百五十石を受け、 天明六年職を止めた。歿年不明。敬隆、由美 へて百五十石を受け、子孫世々滞に仕へた。 イナガキノリタカ 稻垣敬隆 通稱左門・ イナガキゲンシュウ 稻垣玄周 もと奥津

衛門・三郎右衛門。一諱は秀賢。祿三百石を受 イナガキヒデタカ 稻垣秀隆 近稱與三右

| 學び、 年五十餘にして 明倫堂 助教に 擢でら あつた。壯にして江戸に祗役し、山本北山に た。家世々計吏で、元秀は父敬長の第四子で 字を子鑚といひ、洗心又は雪山と號した。 **籔暦六年六月二十日六十九歳を以て歿。秀隆** け、大小將番頭から昇進して御馬廻頭に至り、 字は公質、通稱眞藏、解齋または寧州と號し れ、天保元年十二月廿四日 七十五歳を 以て イナガキモトヒデ「稻垣元秀」一醇は韶、

八郎左衞門、一郎は信任。玄周から六代の孫。 信儀、祖父の逃知の内七十石を襲いだ。 月十一日居宅に於いて自殺した。子與三之助 イナガキヤスサダ 稻垣安定 通稱幸三郎

年前田利長に仕へ、九百俵を賜はり、青山吉 學び、蒙爾とも需爾とも號した。 月九日八十六歳を以て歿。安根學を室鳩巣に て千石に至り、正德三年致仕し、享保三年四 り、馬廻組頭・定番頭を勤め、途に祿を増し 知を襲ぎ、安根は正保元年新知二百石を賜は 安根の父で、三百石を受けた。兄安成父の遺 次と共に越中魚津に在城した。二代三永某は 意閑と號した。其の祖與三右衞門は天正十二 イナガキヤスネ 稻垣安根 通名三郎兵衛、

九日知行を召放された。 けたが、文政四年正月妾を殺害して、二月十 その嫡統は第七代貞九郎忠恕、祿四百石を受 正十二年前田利長に仕へて九百俵を領した。 イナガキョソエモン 稻垣與三右衞門

御贺蔵。 イナクラダケ 稻倉岳 →オタカラグラ

イナシキ 稻數 羽咋郡富木院に囲する部